

スマホ・
タブレット・
パソコン



発見と自信が持てる授業を支えます！

サポートコンテンツのご紹介

子どもたちの主体的な授業は、全国の先生方のお力で日々進化しています。ミライシードでは、先生方と一緒に実践につながる方法を厳選してお届けしています。

タイムリーな Webセミナー情報も見逃さない！ 「ミライシード公式LINE」

チャットボットで、お困りごとについて素早くお気軽に確認することができます。また、Webセミナー情報や役立つ事例も定期的に配信中。お友だち登録いただき、ご利用ください。



オクリンクに
先生スタンプ登場！
最新情報も
「ファンサイト」で！



お友だち登録は
こちら！



すべての情報がわかる！

「ミライシードファンサイト」

「ミライシード」を使用する際、ぜひ開いていただきたいポータルサイトです。基本の操作から最新の実践例のご紹介まで、お役に立つ先生方の工夫やサポートが見つかります。ミライシードのポータル画面からもご覧いただけます。

アクセスは
こちら！

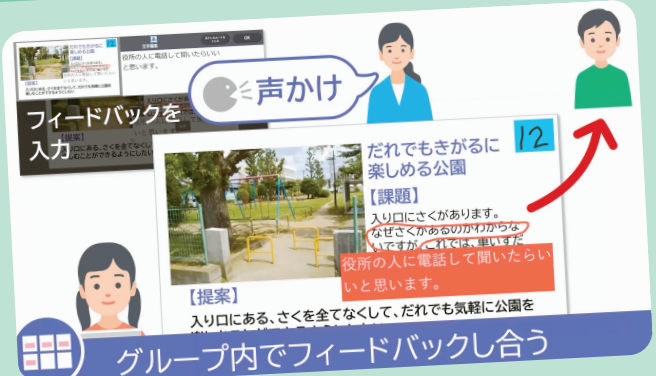


大好評！

「初心者／応用研修」

デジタルに苦手意識がある先生向けの初心者研修、より子どもたちに主体的な授業を展開していきたい応用研修など、先生の状況に合わせた1時間ほどの『Zoom』研修会です。資料もついて次の日から即新しい操作を実践することができます

アクセスは
こちら！



イラスト／藤原なおこ デザイン／Permanent Yellow Orange 編集・文／阿川奈緒子 表紙写真／©visual_supple/amanaimages、©arc image gallery/amanaimages、©visual_supple/amanaimages

2023年度秋版 ミライシード活用事例BOOK

2023年11月1日発行
発行所：(株)ベネッセコーポレーション
小中学校事業本部

冊子作成にあたり、ご協力いただいた先生方に心から御礼申し上げます。

©(株)ベネッセコーポレーション

2023年度秋版

Benesse

もっと子ども主体の授業に！

ミライシード 活用事例BOOK

- ✓ 子どもも先生も続けやすい基本事例
- ✓ 2学期に役立つ最新・研究授業事例

発見・自信が持てる
授業のコツ



厳選

短時間で読める

13事例



※この冊子では、「オクリンク」と「ムーブノート」、「ドリルパーク」の実践事例を紹介しています。自治体の契約形態により、ご利用いただけるアプリは異なります。※この冊子に掲載している情報は、2023年10月時点で得られた情報をもとにしています。

ミライシードの週1使用で 発見・自信が持てる授業に!

「ICTを使わなきゃ」から「使いたい」へ。大きな転換期が来ています。学びも信頼感も深まっていく2学期以降だからこそ、本当に子どもたち主体の授業にシフトできます。

週1以上ミライシードを使っている子ども・先生方の声 /



- 必ず自分の考えを見てもらえる!
- 文・絵・写真で表現しやすい!
- 自分たちで進められる



- 準備・採点・評価がしやすい
- 子ども一人ひとりと向き合える
- 子どもと一緒に学びを深められる!



慣れているから多様な考えが認められる!

発見・自信が 持てる授業の コツ

子どもも先生も楽しい&ラクなリズムづくりがポイント

頻繁にミライシードを使用されている子どもたちや先生方のお声を聞いて、やりやすい仕組みを取り入れ、楽しく気軽に実践されています。

Q. どんな授業・活動でミライシードを使っていますか?

- A. 授業や行事の振り返り 54票
- A. 自分の考えや意見をまとめる活動 45票
- A. 写真や音声などを共有 42票
- A. グループでの意見交流 39票
- A. 意見や作品に対する相互評価 32票

Q. 平均的にどれくらいの時間をかけて、1時限分の授業準備を行っていますか?

- A. 15~20分未満 21票
- A. 20分以上 19票
- A. 5~10分未満 18票
- A. 10~15分未満 15票
- A. 0~5分未満 7票

Q. 継続したミライシードの活用によって、子どもたちにどんな変化がありましたか?

- A. 自分の意見を積極的に出す、書くようになった 52票
- A. 人の意見に興味を持ちしっかり聞くようになった 28票
- A. 自信が持てるようになった 17票
- A. 深く考えられるようになった 14票
- A. その他 10票

Q. 発見・自信が持てる授業のリズムづくりのために、どのような工夫をしていますか?

- A. 少し遊んでもあまり叱らず子どもに任せてみます。(石川県公立小学校 教諭)
- A. あえて使うシーンを決めずに子どもたちの様子を見ていきなり使います!(熊本県公立小学校 教諭)

職員全員での共有、実践報告書など学校全体を巻き込んでいます。(茨城県公立中学校 教諭)

Q. 子ども主体の学習、活動を継続して行うために、どのような工夫をしていますか?

- A. ほかの先生の実践や事例を参考にしている 62票
- A. 学級経営にも力を入れている 35票
- A. 教科授業にかかわらず、学活などでも意見交流などを積極的に行っている 32票

より楽しく&ラクに授業準備をするために!

「カード」がダウンロードできます

この冊子でご紹介する実践例で使用されているカードや事前準備資料のダウンロードが可能です。ぜひご活用ください。この冊子でご紹介しているデータは、2023年9月実施の「ミライシード公式LINE」上でのアンケートをもとに作成しています。

詳しくは...
ミライシード
ファンサイト

ミライシードファンサイト

検索



そのまま使えるテンプレート! この事例のカード番号は1
※「ファンサイト」でご確認ください。

1

日常授業

小5生 学年

学活 教科

オクリンク

1

行事の振り返りの蓄積による自己成長

行事の振り返りにICTを活用。オクリンクを使えば振り返りの蓄積も共有も効率的に進められ、子ども自身が自分や友だちの成長や変化をとらえることができました。

BEFORE

紙での振り返りは準備や管理に手間がかかるものの、一度提出したものは見返さないことも

AFTER

振り返りが自動で積み重なることで自分や友だちの成長に気づきやすくなり、共有し合うことで記述量も大幅に増加

STEP 1

教員は行事後に「行事の振り返り」という授業(ボード)を作成。行事内で撮影した複数枚の写真つき振り返りカードを作成し子どもたちに配布。

5月16日(火) 「水道キャラバン」をふり返って



STEP 2

子どもは最も印象に残った写真1枚をカードに残し、振り返りコメントを記入し、提出BOXに提出、カードを見せ合う。それぞれが学んだこと、考えたことを共有する。



STEP 3

1つの行事の振り返りが終わったら、教員は時間割画面上で、次回の振り返りを行う日に移動。これを繰り返すことで通年で一つのボードによる振り返り活動が可能に。



練馬区立 仲町小学校 青木秀夫先生

蓄積することで、以前の自分の記入内容を見返す子どもが増え、体験した学びが積み重なっていることを感じました。友だちの意見もすぐに見ることができ、新たな気づきへとつながっています。

詳しくは Web でチェック!



他教科での展開 テーマ例

一つのボードを使い続ける活動は、図工や技術などで一つの作品をつくりあげる取り組みにも適しています。



参考事例はこちらから 嶋津英斗先生のご実践

対話が生まれる書き順クイズ&ゲーム

「書き順って大切？ 書ければいいのでは？」そんな気持ちを持っている子どもたちに、対話しながら書き順の大切さが実感できる授業を行いました。

BEFORE

書き順は気にせず、漢字を書けたらよいと考えてしまう子どもが多い

AFTER

正しい書き順で書こうとする意識を高め、新出漢字でもうまく書くポイントに気づける子どもが増加

STEP 1

教員は漢字一文字を口頭で発表。子どもは白紙のカードに、その漢字の1画目を赤で、2画目以降は黒で書いて提出BOXに提出。

STEP 2

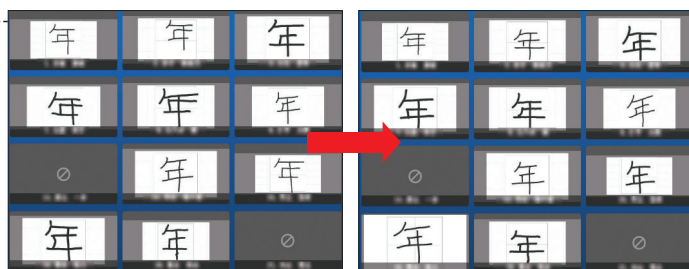
全員提出後、教員は提出BOXを電子黒板に映す。子どもたちは筆順の違いや字のきれいさなど、見て思ったことを自由に発言。教員は発言をもとに対話を促し、漢字をよりうまく書くポイントや正しい書き順を伝える。

STEP 3

次にゲームを行う。漢字の画数分のくじを準備。画数と同じ数のクラス代表を決め、順にくじを引く。くじで出た画数順に沿って、クラス全員でオクリンクのカードに書く。ライブモニタリング機能を使って全員で確認する。正しくない書き順で書きづらさを実感し、感想を述べ合う。

STEP 4

教員は最後に正しい書き順で書くよう指示。バラバラで書いたときと比較して子どもの感想を問いかけ、正しい書き順だと書きやすく、きれいに書けることを子どもに実感させる。



佐々町立 口石小学校 津田信先生



タブレットを使わない書写の授業は、ノートに字を書き、先生に丸をもらって終わりになりがちでしたが、オクリンクを使うと「字がきれいだね」とほめ合うなど、子どもたち同士の交流で、気づきが生まれるようになりました。その結果、漢字練習に励む子どもが増えました。

詳しくは Web でチェック!



他教科での展開 テーマ例

子ども同士での自然な対話を生むには、共有画面で同時に他者との考えの共通点や相違点が見える活動がおすすめです。



参考事例はこちらから 高部正美先生・中澤桃子先生のご実践

宿泊学習が充実する事前学習

宿泊学習は持ち物も、お土産を買う金額も全員同じなので「家庭科力」を学ぶには絶好の機会。事前にかばんの中身や部屋の使い方について考えてから宿泊学習にのぞみました。

BEFORE

イベントの事前指導に重点が置かれていて、生活面での学びの意識が薄い

AFTER

生活面で事前準備をすることで、宿泊中、見通しをもって生活することができる

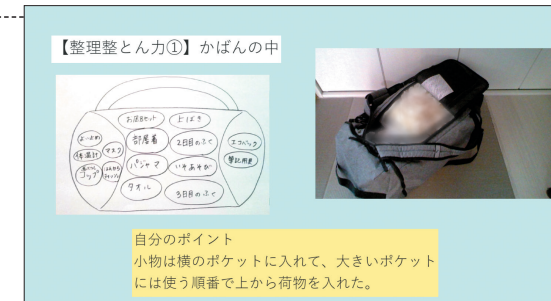
STEP 1

教員は目標や計画～振り返りまで、1つのボードに複数の提出BOXを分けて準備。 ※宿泊学習で下記3点の計画～振り返りまでを実施。本事例では①の方法のみ掲載。 ①かばんの中の持ち物整理整頓 ②生活班での部屋の使い方 ③お土産の買い方



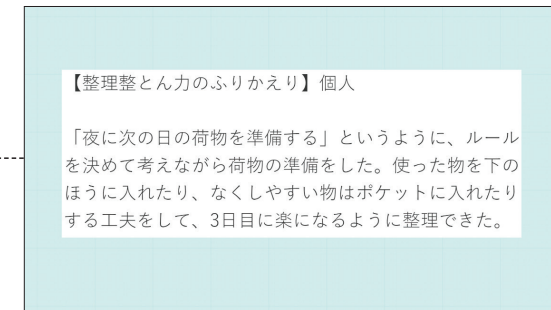
STEP 2

持ち物を使いやすいように仕分けし、かばんの中の配置をホワイトボードに描く。オクリンクのカメラ機能で撮影し、カードに貼り付ける。



STEP 3

宿泊学習当日に実際に荷物を詰めたかばんの中をオクリンクのカメラ機能で撮影。STEP2で作成していたカードに写真を貼り付け、記録に残す。



STEP 4

宿泊学習後、計画が実行できるものだったか、どうすればもっと使いやすかったかを振り返る。計画～振り返りまでカードを連結し、提出する。

練馬区立 大泉第四小学校 横山弘美先生



生活班のメンバーで、部屋やロッカーの使い方についてホワイトボードを使って話し合いました。オクリンクを使うと、1人がボードを撮影したものをすぐに送って共有することができるので効率化できます。また教師も目を通しやすく声かけがしやすいです。子どもたちは楽しみながら「家庭科力」を身につけてくれました。

詳しくは Web でチェック!



他教科での展開 テーマ例

校外学習では、各テーマ別の事前準備や振り返りを一連のカードにまとめて提出する活動がおすすめです。



参考事例はこちらから 加藤大補先生のご実践

体験を通じた図形の性質の探究活動

体験活動によって「三角形の内角の和は180°」という性質を多面的に学びます。オクリンクを使えば、様々な形の三角形を画面上で図を用いて複数生成できるため、効率的に体験学習ができました。

BEFORE

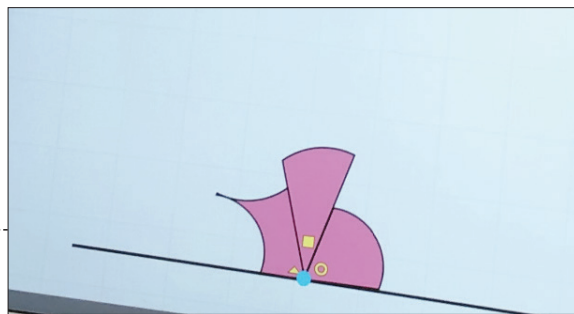
図形の性質を公式として理解しているが、応用が効かない

AFTER

あらゆる体験活動を通して理解を深め、図形の性質に自ら気づき、ほかへの応用ができるように

STEP 1

教員は三角形を角ごとに3つに切り分けた図形を事前にカードに取り込む。同様の三角形を複数用意し、一連のカードとして全体に共有。



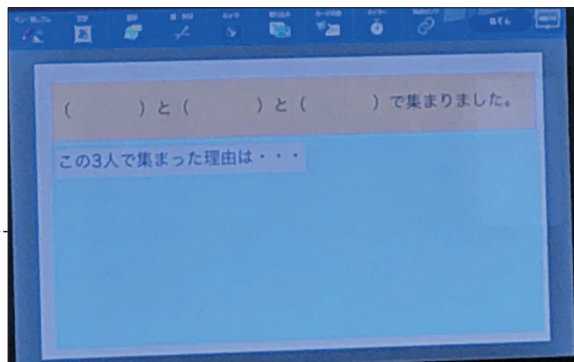
STEP 2

子どもは連結されたカードから1枚選び、カード上で動かして3つの内角を横一列に集める。3つの内角の和は、すべて180°になることに気づく。



STEP 3

教員は角度が書いてある三角形の内角を1人につき1つ送付。子どもは足して180°になるように、クラス内を歩き回ってほかの角度を探し、三角形を完成させる。三角形をつくれたグループは3人が集まった理由をカードに入力する。入力後のカードを提出BOXに送る。時間が余ったら、グループ内代表者1名のタブレットに自分の角を送り、三角形ができるかを確認。



STEP 4

教員は提出BOXを全体共有し、「三角形の3つの角の大きさの和が180°」になることが理由でグループができていることを確認。

一人ひとりが1つの内角を持つという役割分担から責任感が生まれ、主体的に体験活動を進めてくれました。いろいろな学習活動を通して1つの図形の性質に迫り、単元のねらいを本質的に理解することができました。

詳しくはWebでチェック!

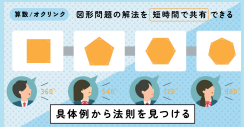


八幡市立中央小学校 竹ノ内詩野先生



他学年での展開
テーマ例

オクリンクは複数の図形の提示や考え方の共有を即座に行うことができるため、具体例から一般化する活動が必要な図形の性質に迫る単元で活用できます。



参考事例はこちらから
國井一機先生のご実践



子どもから生まれる問いに対する考えの共有

乾電池のはたらきについて思考を深める実践です。子どもが「予想」を立て、実験から「結果」を知り、「考察」を行うことで生まれる疑問から、次の時間の課題を考えます。

BEFORE

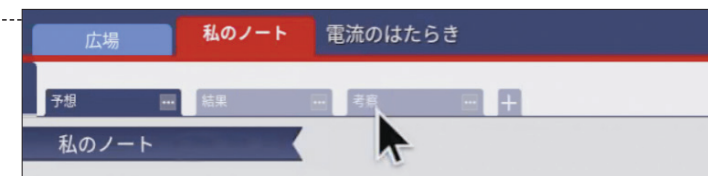
教員主導の実験や考察になり、子どもは個人思考が中心

AFTER

子どもの疑問や気づき、発話を起点にした学習になり、子どもの主体性が伸びた

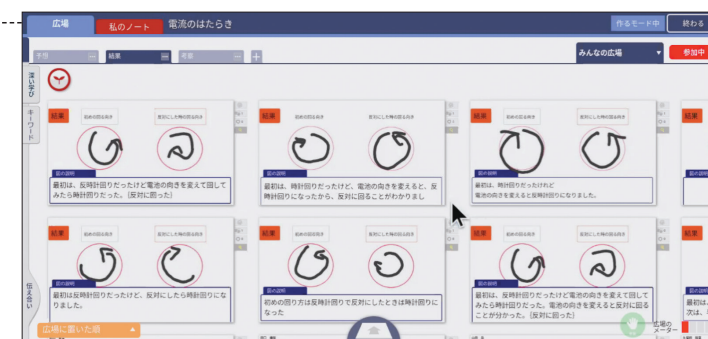
STEP 1

教員は事前に3つのタブ「予想」「結果」「考察」とそれぞれのシートを準備。



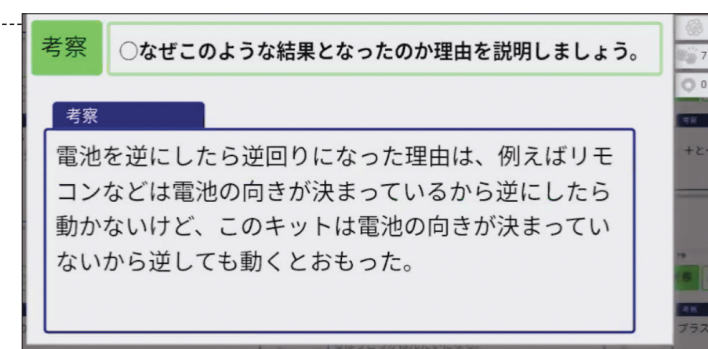
STEP 2

今回の課題「電池を反対にした時のモーターの回る向き」について子どもが回る向きを予想して手書きでカードに入力し、「予想」のタブに共有。実験を行い、その結果も「結果」のシートに提出する。



STEP 3

最後に、なぜこのような結果になったのかをカードに記入し、「考察」のタブで全員のカードを確認。良いと感じた考察には拍手を送る。



STEP 4

「考察」のタブを確認中に出てきた子どもたちの声から、次の時間のテーマ「電池を増やすとモーターの回る速さは変わるのか」を設定。次の時間でも「予想」から「考察」までを繰り返す。

電池や電流の流れは言葉で考えを伝えることが難しいため、ムーブノートのペイント機能や手書き入力が大変役立ちました。また、意見共有もスムーズになり、広場で自分の考えに似ている意見を探すことで、予想や考察を全然書けないという子が減りました。

相模原市立川尻小学校 小室南先生



詳しくはWebでチェック!



他教科での展開
テーマ例

ムーブノートの広場では、お互いの意見を瞬時に確認できるため、見合っ気づいたことをしっかり話し合ったり、気づきを起点に学習を進めることが可能です。



参考事例はこちらから
鈴木博之先生のご実践



英作文の共有で「書く」表現力のアップ

英語の学習で大事なことはたくさんのインプットと自分の言葉でのアウトプット。共有機能を活用すれば、既習文法でクラス全体の表現力を高めることが可能です。

BEFORE

学習した文法や表現を活用する機会が少ない

AFTER

ALTに英文でメールを送ったり、やりとりをみんなで共有したりすることで、表現力が向上

STEP 1

教員はオクリンクのカードでメールのフレームを作成し、子どもに配布。子どもは、提示されたテーマに沿って本文を作成し、提出BOXに提出すると同時に「じぶんBOX」にも保管する。ALTの先生は子どもが書いた文章を読み、オクリンクのカードに返事を書き送る。



STEP 2

返事を受け取った子どもは、自分が書いたメール文章のカードとALTからの返信カードを連結し、提出BOXに提出。教員はどのようなやりとりが行われているかを確認。



STEP 3

ムーブノートを開き、子どもは自分が書いたメールのみ「じぶんBOX」から取り出し、カードに貼りつけ、広場に提出。ほかの生徒のカードに、コメント機能で感想を英語で書き込む。

オクリンクを使うことで、メールの醍醐味である相手とのやりとりが簡単に実現できました。さらにはムーブノートによって他の子どもとの内容の共有もできました。同じテーマでも様々な表現方法、内容が登場し、さらに感想コメントも実にバラエティーに富んでおり、何より子どもが楽しみながら取り組んでいます。

詳しくは Webでチェック!



長野市立 犀陵中学校 徳永圭典先生



思考・表現活動につながる授業冒頭の10分復習

集中して復習する時間を固定化することで、基礎定着が進み、授業では本来取り組みたい思考・表現活動をしっかり行えるようになりました。

BEFORE

一律の紙のドリル。終わった子どもは手持ちぶさたに

AFTER

早く終わった子どもはさらにドリルを進めたり、苦手な生徒はワークに戻ったりするなど、個別最適な学習を実現

STEP 1

教員は授業開始前に前時の学習範囲を課題として配信。子どもは授業開始後10分で取り組む。その間、教員は本時の板書を完成させる。



STEP 2

教員は「リアルタイム進捗確認」で進み具合を確認。子どもの様子によって時間を延長するなど調整。指定の範囲が終わった子は自分で単元や問題を選んで解くなど、個人で学習を進める。



STEP 3

授業終了後に学習履歴を確認。授業中の演習時間に個別に声をかけるなどのフォローを行う。

学年平均	120	46分	22.2	86.0%	178.7	153.7	6.7
クラス平均	34分	26.0	87.4%	201.7	176.3	895.2	
学習時間	解題ドリル数	正答率	問題数	正答数	解き直し問題数		
1分	1	0%	4	0	854		
3分	8	32%	36	18	10980		
7分	7	90%	51	46	369		
13分	16	91%	148	136	373		
28分	19	81%	174	142	257		
10分	20	81%	182	148	0		

リアルタイムで進捗確認をすることで子ども個々の理解度もわかり、より丁寧な見取りができます。また演習中に教員が板書作成をすることで授業中の子どもの待ち時間がなくなり、子ども同士で思考する時間を確保できるようになりました。

詳しくは Webでチェック!

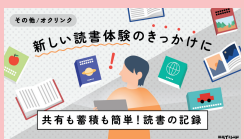


柏市立 柏の葉中学校 長谷川友一先生



他教科での展開 テーマ例

アウトプットを深めるためには、感想を記入し、その記録をクラスに共有する活動がおすすめです。

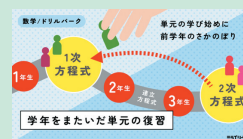


参考事例はこちらから 青木秀夫先生のご実践



ドリルパーク その他の事例

単元の学び始めにドリルパークの課題配信機能を使用しているご実践です！ぜひご参照ください！



参考事例はこちらから 村山徹先生のご実践



期限付きの課題配信で家庭学習の定着を

宿題を学校で解いたり、答えを見ながら取り組んだりする様子が見受けられたため、宿題を日時指定で配信し、自宅で宿題に取り組む習慣を身につけてもらいました。

BEFORE 家で宿題をしない子や、答えを見ながら取り組む子がいる

AFTER 家で集中して取り組む習慣ができるだけでなく、途中で答えが見られないためしっかりと考えることができる

STEP 1 当日宿題として出すドリルパークの問題番号を、授業で使うプリントの最後に記載し配信。

STEP 2 当日の16:00～翌日7:30で日時を設定し課題を配信する。

STEP 3 子どもはプリントの問題番号を確認し、各自宿題に取り組む。教員は取り組み状況を確認。正答率が悪い問題は、授業内で復習し、形式を変えてテストにも出題。

ドリル問題ごとの正答率確認画面

No.	問題	解答	正答率
基6	次の文中の「ふくらむ」の意味はよめる出字を選びなさい。 水中の物体に浮力がかかると、物体の上にはたらく水圧より下にはたらく水圧のほうが大きくなる。	大きくなる	93%
基7	水中に入れた物体が浮くとき、物体にはたらく重力と浮力の大きさの関係はどのようになっていますか。正しいものを1つ選びなさい。	重力>浮力	83%
基8	水中に入れた物体が水面に浮かんでいるとき、物体にはたらく重力と浮力の大きさの関係はどのようになっていますか。正しいものを1つ選びなさい。	重力=浮力	71%

鈴鹿市立平田野中学校 小林勇太先生

ドリルパークを使うことで、家庭学習への意識づけができますし、取り組み状況もすぐに確かめることができるので、正答率を見て、授業でのフォローもしやすくなりました。

詳しくはWebでチェック!

ドリルパークの説明動画公開中!

効果的な活用方法を含むドリルパークの説明動画をご用意しております。ぜひご覧ください!



説明動画はこちら

子どもの主体性を育む推敲活動

子どもが文章を書きたいと思う動機づけを行い、既習漢字を使いながら文章全体の構成に着目し、自分で文章を整える力をつけてもらいたいと考えました。

BEFORE わかりやすい文章を書く力が定着しづらい

AFTER 文章を書く力が伸び、読み直しの着眼点にも気づけるようにさらには文章を書こうとする意欲の向上へ

STEP 1 事前に今回の文章テーマとなる「理想の時間割」を全員で考えオクリンクで共有。子どもは時間割の中から一つ授業選択し、選んだ理由などを文章化する。

STEP 2 オクリンクで配信されたチェックシート(教員が事前に作成)をもとに、自分で書いた説明文章を推敲する。

STEP 3 ペアでも推敲した後、自身の文章を書き直す。

STEP 4 書き直した文章を撮影し、ムーブノートに貼りつけ、振り返りを行う。子どもは推敲してもらって気づいたことや、次に生かしたいことを広場に共有する。

八幡市立中央小学校 水谷智明先生

タブレット内に保管していた各教科の学習成果物を使ったことで、他教科の学習も振り返りながら本単元の目標を達成できました。自分で時間割を作成してから振り返りまで、子どもが行うことでさらに内発的動機づけを高めることができました。

「ミライシードファンサイト」内「研究授業事例」ページにて実践を詳しく公開中!

他教科での展開テーマ例

児童完結の学習活動は、算数での単元まとめにもおすすめです。作問から答え合わせまで子ども同士で行うことで主体的な理解が進みます。



参考事例はこちらから 田屋裕貴先生のご実践

筆者の表現や構成の工夫を多面的に捉える

難度の高い題材や作品でも必要な情報の見つけ方を学び、筆者の論の進め方について多面的に交流することで、子どもたちの気づきの幅を広げることができました。

BEFORE

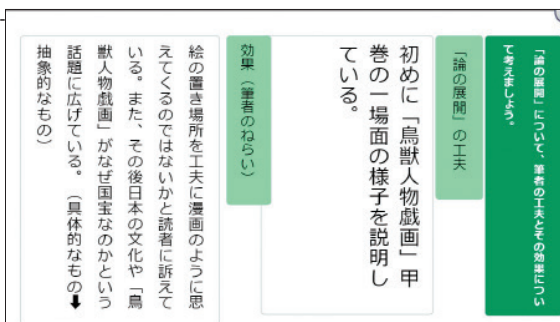
表現の工夫を探る場面で、視点を整理できないまま漠然と話し合いが進んでしまう

AFTER

焦点化してスモールステップの話し合いを行うことで、対話を深めることができる

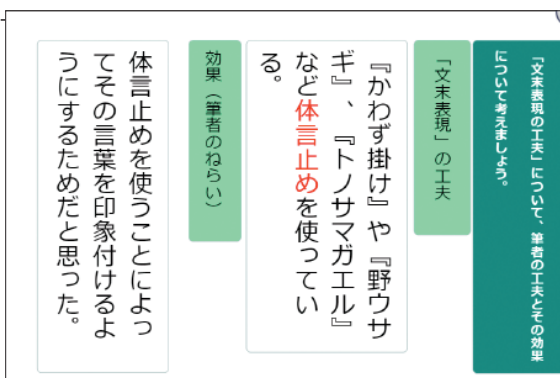
STEP 1

教員は、筆者の表現の工夫と効果について、3つの視点「論の展開」「文末表現」「絵の表し方」のそれぞれの工夫のカードを作成し、授業を開始する。



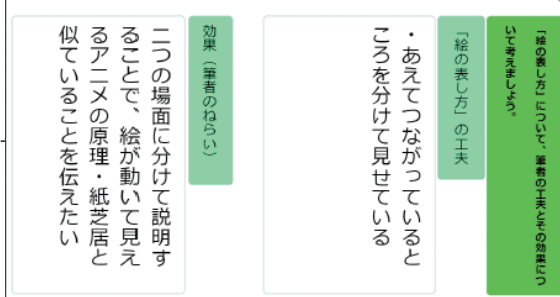
STEP 2

子どもは3枚のカードの中から1つ選び、筆者の工夫やねらいについて気づいたことをムーブノートに書き出す。



STEP 3

同じ視点を選んだ人とグループをつくり交流する。グループでの話し合いの結果をもとに、代表者が広場で共有し、振り返りを発表する。



STEP 4

次に、ほかの視点を選んだ人とグループをつくり、交流する。表現や構成の工夫を話し合う。

練馬区立 石神井台小学校 高橋蔵匡先生



ジグソー活動で子ども一人ひとりが担当する観点を持ったことで、他者の考えに興味を持ち、自分の考えを見直すことができました。多面的に作品を理解することができました。

「ミライシードファンサイト」内「研究授業事例」ページにて実践を詳しく公開中!



他教科での展開 テーマ例

1つのテーマについて多角的な視点から調査を行う際には、カードの見せ合いで手軽にジグソー活動を進めることができます。



参考事例はこちらから 高橋蔵匡先生のご実践

フローチャートで理解が深まるわり算の考え方

プログラミング的思考力を養うことができるフローチャートを計算問題の単元に組み込むことで、過程を言語化し、“どうしてその答えが出たのか”を説明できるようになりました。

BEFORE

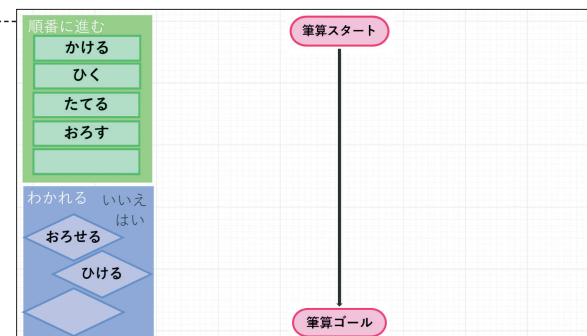
わり算の解き方の理解にばらつきがある

AFTER

どのようにその答えを導き出したのかを説明することで、計算の流れの理解が定着する

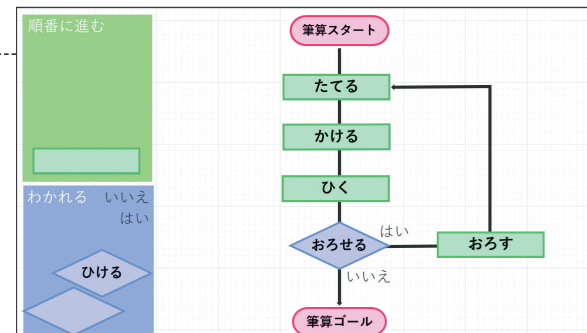
STEP 1

筆算を解くために、手順のヒントとなるカードを教員が用意。オクリンクで手順のヒントとひっ算の手順がバラバラに並んだフローチャートのカードを送付。子どもは工程を並び替える。
※子どもが難しそうなお場合には、あらかじめ流れを作成しておき、重要な箇所のキーワードのみ、どの位置に入るか検討させる。



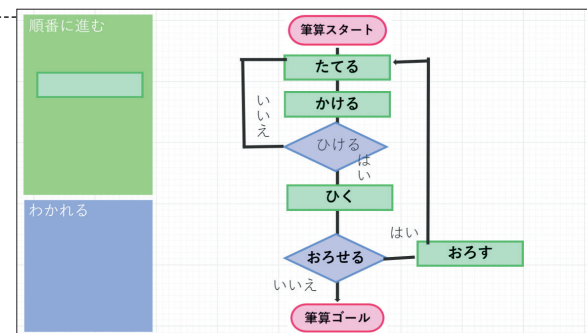
STEP 2

一人ひとりが考えたことをもとに、グループで自分の考えを説明し合う。グループで出た意見をもとに、個人に戻ってフローチャートを修正する。



STEP 3

修正したカードを提出BOXに提出し全体共有。共通点を探しながら、まとめを行う。友だちと話し合ったことやわかったことなど、学習の振り返りを全体で共有。
(右のカードは子どもが作成したフローチャートの一例)



宇城市立 豊野小学校 吉田沙也加先生



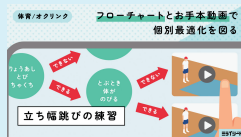
白紙のノートに計算の流れを言葉で表現することは難しいと感じたため、事前に教員側で計算の工程を動かせるカードを準備し配付しました。算数がニガテな子どもでもキーワードを見ながら、順番を予測することができていました。

「ミライシードファンサイト」内「研究授業事例」ページにて実践を詳しく公開中!



他教科での展開 テーマ例

フローチャートを作成する活動は、流れや工程を図式化する取り組みに適しています。



参考事例はこちらから 水谷智明先生のご実践

ジグソー学習による文語定型詩の読み解き

四連構成の文語定型詩について読み解きます。グループ活動の中にジグソー学習を取り入れることで能動的に詩の解釈を行い、意見交流をしながら1つの課題に迫りました。

BEFORE

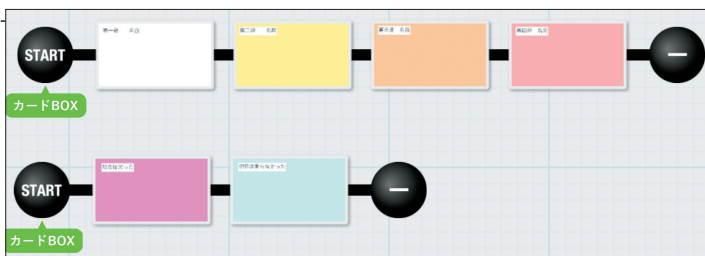
古語辞典やインターネットで知らない単語を調べるだけになってしまい、詩全体の理解が深まらない

AFTER

グループ活動やジグソー学習を通し、詩に対する考えを深め、詩全体の理解ができる

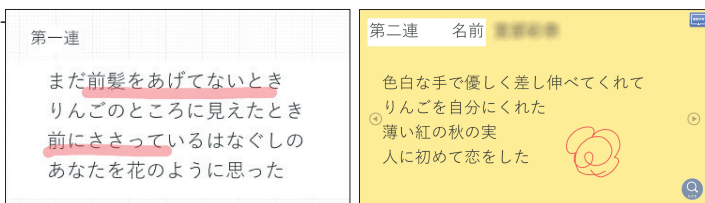
STEP 1

教員は、口語訳用のカードを作成。課題「主人公の初恋は実ったのか」を考えるために、グループで1人一連ずつ担当し、解釈(口語訳)を予想する。



STEP 2

同じ連を担当するほかのグループの友だちと交流し、各自で解釈した内容の共通点や相違点を見つける。



STEP 3

グループに戻り、各連の意味を共有しながら詩全体の意味を確認。課題の答えを考える。



STEP 4

グループで出た課題の答えを先頭に、各連の口語訳カードをつなげて提出BOXに提出。全体で共有し、その根拠を発表する。



茨城町立 明光中学校 福住里絵先生



受験を意識し、初見題材を解釈する力を身につけてほしいと考え、古語辞典を使用せずに詩の読み解きを行いました。口語訳もないなか、活発な意見交流ができたと思います。また、感想や振り返りの文章の量がノートに書くときより格段に増えたので、子どもたちの理解度を正確に確かめることができました。

「ミライシードファンサイト」内「研究授業事例」ページにて実践を詳しく公開中!



他教科での展開 テーマ例

ジグソー学習はグループで役割分担後に調べ学習を行い、全体で1つの課題を考える取り組みに適しています。

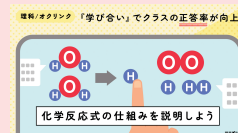


参考事例はこちらから 程島綾香先生のご実践



他教科での展開 テーマ例

自分の言葉で説明し学びを深める活動は、計算や実験の過程を図式化する取り組みに適しています。



参考事例はこちらから 浅見拓真先生のご実践



「伝え合い活動」を通して図形の性質に迫る

苦手意識を感じている子どもが多い図形の授業で、自分の考えをどう表現したらクラスの友だちに伝えることができるか、活動を通して学んでもらいたいと思いました。

BEFORE

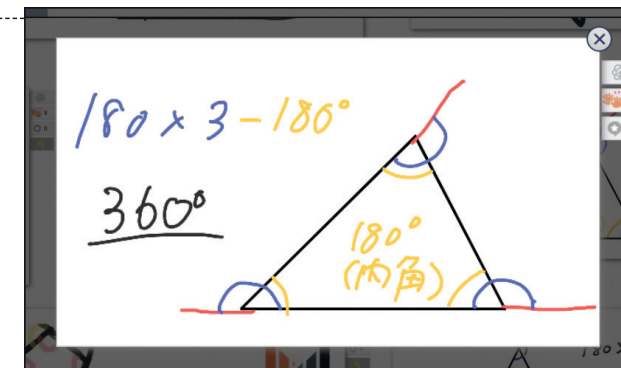
公式として覚えてしまい、理由が理解できていない

AFTER

数学的な表現を使って、筋道を立てて説明することで理解が深まる

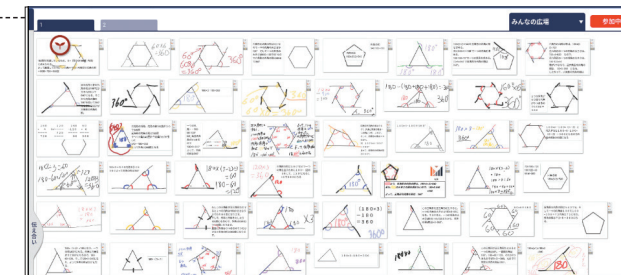
STEP 1

三角形を貼ったカードを配付。既習事項に着目しながら、子どもはなぜ外角の和が360°になるのかをカード上で色や文字を使い説明。作成後に、広場に共有。(得意な子には四角形・五角形についても同様に考えさせる)



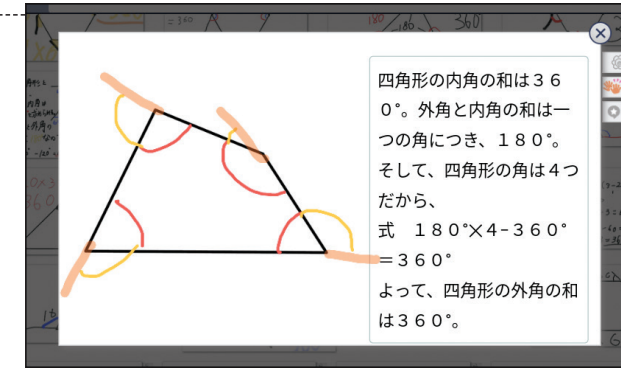
STEP 2

子どもは広場のほかの人のカードを見て参考になったカードにコメントと拍手を送る。



STEP 3

三角形に限らず、多角形の外角の和も同じであることを確認するために、STEP1とSTEP2の流れを同様に繰り返す。



加須市立 加須平成中学校 小暮 涼介先生



苦手な生徒は友だちの意見を見て表現方法を参考にしたり、得意な子どもは図形のカードをコピーし、他の求め方を考えたりするなど、それぞれのレベルに合わせた取り組みができました。

「ミライシードファンサイト」内「研究授業事例」ページにて実践を詳しく公開中!

